

平成24年9月27日、「第3回北海道国有林森林・林業技術協議会」が開催されました。本協議会は、北海道森林管理局、森林総合研究所北海道支所及び同林木育種センター北海道育種場の3者が連携し、林業技術等に係る協議を行い、地域の森林・林業振興に寄与することを目的に、これまで会議形式で行ってきたものです。今回新たな試みとして、札幌市の奥定山溪等の現地において現地検討会として開催しました。

冒頭、津元局長及び川路支所長から「行政と研究機関が連携することの重要性」、「現地で開催することの意義」などの力強い挨拶がありました。

その後、森林管理局からは「天然林施業指標林における取組み」についての説明を行い、さらに、森林総合研究所北海道支所からは「森林内における野生生物管理」、「天然林施業実験林における研究成果」、「天然林択伐と昆虫の多様性」についての説明がありました。実際の現地を見ながらの説明は効率的であったような気がします。(詳細は添付ファイル参照)

途中から降り出した雨にもかかわらず、総勢35名の参加者からは活発な意見等が出され、貴重な時間を共有することができました。

最後は、廣野育種場長から「今日一日、林業技術、森林調査、森林内における生物多様性まで幅広い協議ができ、非常に有意義であった」との総括で締めくくりました。

行政機関であっても研究機関であっても、同じ森林というフィールドを相手にし、森林環境をより良い方向に導いていきたいという思いは共通のものであり、そのためにも様々な分野の研究者等からの幅広い意見等が重要であり、今後ともこのような協議の場は継続されるべきだと感じました。